

『系統的保育案の實際』解説（十）

生活訓練	倉橋惣三
誘導保育	菊池ふじの
唱歌遊戲	村上露子の
談話	新庄よしこ
觀察	小島光子
手技	及川ふみ

『系統的保育案の實際』は、東京女子高等師範學校附屬幼稚園の編になり、日本幼稚園協會から發行せられてゐる。

一昨年七月以來、既に多大の部數が、全國保育界に普遍し、熱心なる保姆諸君によつて、研究せられ又實施せられてゐる。しかも此の保育案は、舊來の諸保育案、殊に單なる羅列的保育要目と全く異なり、幼稚園保育の本義に立脚して、幼兒の生活に出發し、生活に歸着する、生活系統としての新らしき保育案であるところから、その實施に於ても新らしい研究を必要とする。又、本保育案の各項に就て、尙ほ進んで詳細なる解説を求められることが尠くない。

本稿は、それ等の要求に對して同人相促し、分擔して各項の解説を試みたものである。說いて詳細を盡さないのは素より、私案私説、極めて熟せざるところが多いのを恐れる。たゞ、保育案の表示のみにては一層盡さざるを思ひ、これが理解を助け、實施上の便を加へ得んことを希ふてゐるのである。

尙ほ念のため附言するが、本保育案の本質の中心をなすものは、各項の内容よりも、保育案そのものの立て方にある。内容の選擇排列も亦、一々意を用ひたところであるが、保育案としての根本の建て前を離れては、保育としての活きたる意味が失はれる。従つて、『系統的保育案の實際』を絶えず傍に置かれることなくしては、本解説は正しき用をなすことを得ないであらう。

年少組、第三保育期

——満四歳、満五歳——

生活訓練

第五週

作業中の姿勢は、随分大切な問題である。背骨が曲がる。胸を壓す。眼が悪くなる。一寸考へたゞけでも、こんな重要な問題がある。この他にも多くの悪い影響があるであらう。なかに大したこともないでせうといふ人もあるが、結果が大したことであつてもなくても、その注意をするのは、それこそ大したことでない。一寸した注意で、それが直せる、それをしないのは、先生方の不親切である。ところで、斯うした體姿上の正否は、簡単な習癖であつて、癖といふものゝ通性上、正しい方が實は心もちがよい筈なのである。一旦悪い癖がつくゝ、その方がらくゝにも感じられるが、そこには必ず生理上の不自然が伴ふてゐるの

で、ほんさうには快くない筈のものである。それを正しい方へ歸せば、その矯正間是不快でも、矯正された後は、快くなる。そこを充分考へて、子ども達のために、正しい姿勢の快感を與へてやりたいのである。

それには、机や椅子の高さなどが先づ大事な問題になる。そこに無理があつてはならないが、之れが實は容易でない。組の机腰掛が一齊にはいかないし、個人々々さいつても、月々に成長してゆく子達である。机腰掛も生きてゐて呉れない限り、後へさりのこされるのは免れない。ビヤノ用のやうな椅子では、落ちつきが悪くなり易いし、まあ大抵のところで我まんしなければならぬ。我まんさいふさいふ、加減のやうだが、そこが、保姆さんの細い注意を要

するところである。

第七週

外套を自分で着てボタンをはめるといふやうのことは、自分のことは自分でするといふ訓練として先づ大事のこゝであるが、同時に、その機會いろいろの練習もつくのである。モンテッソーリーではいろいろの作業を分解して、それを特別の用具で練習させる。その効果も確にあるが、生活として抽象だといふこゝが私達としては不満足である。あんな分析的な練習的方法によらなくても、平生の具體的實際的生活の中で、いくらかそのいゝ機會が捉へられる。この外套ボタンはめの如きその一つである。

これは何も外套に限つたこゝではない。いろいろの實際生活の中に、それと同様練習價值のあるものが少なくなゝい。獨立は獨立心ばかりでなくて、獨立力である。もう赤ちゃんではなし、さし／＼いろいろの實際生活をさせるべきである。

第十週

大きい組になつてからの約束といふが、約束といつたつ

て、なつて見なければ分らないこゝ子ぎも達はいふかも知れない。實にそうである。寧ろ希望といつた方がいゝかも知れぬ。幼い子ぎもの約束はつまりは希望だからである。約束は漢字で書くといかついが、英語でいつてみればプロミツシングで、將來に期する心である。それも何をしまゝ、何をしてはならない。組が上になつた以上、うつかり大きな聲を出してもならぬ。身體中に糊づけしたやうに行儀よくしなければならぬ。ならぬ／＼。ならぬこゝをしなければならぬづくめでは、ほんさうにたまらない。將來に期するこゝは、斯うもしたい、あゝもしたいの希望である。うれしい希望である。力づけられる希望である。幼児には希望の外何も無い。

お休み中の注意だつて同様である。さうも學年の末になるこゝ、何んの彼んのこゝ註文を出したがるのが先生の癖であるが、そんなに一々脅さないで下さい。殊に此のお休みは春めき渡る好季節。先生の御注意ばかり、秋めいたり、冬めいたり、わめいたり（これは一寸失言）しては、季節はづれといふものにならう。

修了式のこま。これは何んでもない注意のやうであるが、年長の組の得る修了、その先輩のお別れ、お祝ひを送別。こんなこまに初めて出あふのであるこまは、可なり

誘導保育

第四週 旅行

改札口

三寸角位の材木（必ずしも三寸角は限らない、もつこ細くても結構）を、子供の胸位の高さに切つたのを五本ばかり用意する。之を鍵の手に立つ様に工夫する。それにはこの鍵の手の底になる部分に、分厚の板（三寸幅位のもの）を當て、この板の上に三寸角の五本の棒を立てる様にする。安定に立つ。之の上の方は、底と同じ様に三寸幅位の板を渡せば一番よし、そうでなく横の方へ細い板を、やはり鍵の手に曲つて打ちつけて上の部を固定してもよし、或は、布や麻紐等にて編んだ太い紐等を各々に結びつけてもよし。それから上と下の間にも、今の様な工合にして、も

意味をもつこまといへやう。その意味をさうしたら強めるこまが出来るか、強めるといつて、幼児らしくするこまが出来るか。問題はそこである。

う一ヶ所固定するこま。こういうのを、も一つ拵へる。

そしてこの二つを向ひ合ひに竝べる。改札口云ふ感じが出て来る。この一方の内側の角の所に子供が立つて改札の仕事をする。この柵が出来ると、もう子供等は教へられなくともそれ／＼部所について遊ぶものだ。

切符賣場

お庭の土の上、又は、お部屋の床の上に立てる様な獨立した切符賣場を拵へてもよし、或は机か臺かの上に乗せる様な小規模のものでもよし、材料の都合で何れもきめる。

前者だつたら、正面中央を七〇センチ、兩袖を三〇センチ位の幅、高さは、子供の脊の丈よりも高くしておく。兩